

# 文教委員のご紹介

(左から)

委員長	鈴木 宗貴	
副委員長	平野 充	
委員	大須賀浩裕	丸田 絵美
	岸本 直子	木下 安子
	澤井 慧	

手話

# 報 告 事 項

- ① 商工業振興費について
- ② 校外学習指導費について



手話

# 商工業振興費の概要

- 中小企業事業資金融資事務費 8900万円  
(コロナ等の影響を受ける事業者に制度の拡充を継続)
- 商工業助成費 8514万円  
(商工会補助金、中小企業感染予防対策補助金、等)
- 商業振興費 3794万円余  
(商業振興・活性化プラン策定費、  
地域商店街コミュニティ  
支援事業補助金、等)



手話

## ●国の事業復活支援金について

市が予算を計上するものではないが、市内の個人事業主やフリーランスといった方々をフォローしていけるよう商工会とも連携をとり、市として状況の把握に努めてもらいたい。

## ●事業所経営実態調査について

アンケート調査について方法を確認。対面や電話で個別に聞き取りという手法。細かな意見について今後の分析を。



手話

## ●キャッシュレスについて

小規模店では釣銭を用意するための両替手数料は負担が大きく、税金分を負担したほうが良いという話も聞く。釣銭を必要としないキャッシュレスのさらなる拡充を。

## ●回遊性、魅力発信について

企業とコラボすることでメディア等の取材が入り注目される。民間手法の活用を求めるとともに、回遊性では、都市計画や環境などとの庁内連携の上で産業振興もしっかりと関わることを求める。



手話

## ●市内飲食店の応援について

市民にSNSに載せて下さいと呼びかけられるサイトを設けることについて、より一層、一般の方に発信していただけるような取組を、検討実行していきたい。



## ●商店会のイベント事業支援について

アフターコロナで、イベントも取り組みたいところも出てくると思うので、成功事例、参考事例の情報を積極的に提供してもらいたい。

手話

●事業資金融資について 事業の拡充や直貸し実施を要望しているが、コロナ以降、斡旋が増えている。令和2年度決算でも貸付が増えている状況から、令和3年度と同じ規模でいいのか臨機応変にやっていただきたい。

事業所経営実態調査で実態を知るという面では積極的な取組を進めているが、72.5%の事業者がマイナスの影響があると感じている。調布市にやってほしいこととして事業継続への支援、融資制度の拡充、人材確保への支援等々期待が大きくなっている。

商業振興・活性化プランに実態調査をどう生かしていくのか、また新年度のスケジュールは。

手話

## ●商業振興・活性化プランについて

中長期的な視点も需要だが、アジャイル（俊敏な）型の手法を取り入れ、計画から実行までのPDCAサイクルを短くして商業の活性化を推進して頂きたい。

## ●事業者実態調査について

対象企業をタウンページから抽出しているという事で、時代に即した調査手法を検討頂きたい。

手話

## ● LED化について

終わっていない商店街は、引き続きの取組みを。



## ● 商業振興・活性化プランについて

コロナ禍以前からの課題とコロナ禍の新しい課題が混在している現状においては、プラン策定だけを目的化せず、場合によっては複数年次にわたって調布市の商業活性化の方向性をじっくりと議論することを求める。

手話

# 校外学習指導費について

## ●校外学習について

決定プロセスに関して、判断のタイミングや決定の出し方において整合性に欠けていたといわざるを得ない。当事者の思い等を勘案し、納得できる筋の通った判断を求める。



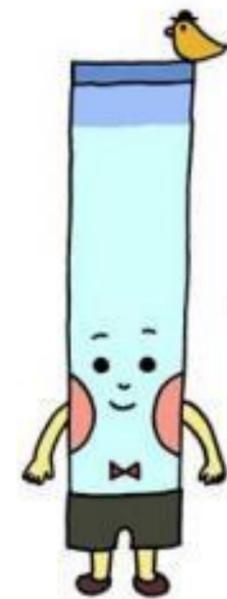
手話

## ●主催事業費等運営費の大幅増について

クリーンプラザふじみの社会科見学を全小学校で行うということであった。三鷹市ではすでに同事業が全校で行われていることから、この事業について評価する。

## ●小・中学校 連合美術展の作品について

終了後、優秀作品を市庁舎などに展示し、市民の作品も含め、公共施設を市民ミュージアムにすることについて、積極的な事業展開を期待する。



エントツくん

手話

## ●校外学習について

就労体験事業は難しいとの説明だが、事業者とのアンケートも重ね、実施できるようにがんばってほしい。



修学旅行も校外学習も、学校関係者や子ども達に多大な負担、ご心配をおかけしているが、実施の可否については余裕を持ったやり方が必要であり、計画した以上は子ども達を参加させるために最大限の努力が必要と考える。

どうやって行かせるのかという点で、市が揺らいではいけないと考える。今後、検査キットの配付をセットで考えたほうがいいのか、要望する。

手話

●修学旅行の急遽の中止から短期間での実施へ変更という意思決定は主体性のない意思決定となっており、極めて残念。

この2年間で児童の体験学習の機会がほとんど奪われている中で、来年度計上している体験学習の予算はポリシーをもって実施していただくことを要望する。



手話

●コロナ禍の宿泊行事については、子どもにも色々な意見があると思うが、移動教室のあり方について、これまで子どもの声を聞いて話し合いがされてきたのか。通常どおりの活動が難しい状況だからこそ、学習指導要領の主体的・対話的で深い学びの実践として、従来の宿泊行事についても、どのような形ならみんなで思い出に残る行事として実施できるか、子どもたちの意見を聞き、一緒に考えるプロセスを大切にしてほしい。



手話